

備 前 市

幼・小・中一貫英語教育推進プログラム



令和 5 年 4 月

備前市教育庁国際教育推進部

はじめに

社会のグローバル化や情報化、少子高齢化などが加速する中、教育へのニーズも拡大・高度化してきています。こうした中、令和3年（2021年）度までに幼稚園・小学校・中学校で新しい学習指導要領が全面実施され「生きる力」の育成と、それを支える「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の調和の必要性が示されました。

備前市では、子供たちの現状や課題、保護者・市民の期待を受けて、本市の教育の目指すべき姿を描いた「備前市教育大綱（令和3年10月）」を策定し、「国際教育都市・備前市」構想の一環として、三石・吉永地区を「国際教育・英語教育重点地区」と定め、地区内の6校園の全ての保育・教育活動において国際教育と英語教育を重視することとしました。

また、「備前市教育大綱」の理念・目標の実現を目指し、本市における教育・人づくり全般について、基本理念・目標・内容の基本構想を作成するために、令和4年（2022年）8月に住民代表、学校・園代表、社会教育関係者、教育委員、学識経験者等からなる「備前市教育未来創造会議」が設置されました。

備前市教育庁国際教育推進部では、「幼・小・中一貫英語教育推進プログラム」を策定し、本市の子供に身に付けさせたい力と英語教育の在り方を示していますが、この「幼・小・中一貫英語教育推進プログラム」は、新しい学習指導要領の理念を踏まえ、「備前市教育大綱」で示した子供の姿を実現するために、「備前市教育未来創造会議」の意見を聞きながら作成したものです。

このプログラムにより、「国際教育都市・備前市」の中核を担う備前市立保育園・こども園、小学校、中学校が共通理解を図り、英語教育・国際理解教育を充実させ、12年間を見通したプログラムの中で、英語によるコミュニケーション力、自国や郷土の伝統・文化や諸外国の文化への理解力を身につけて、様々な分野で活躍できるローバル人財^(注1)を育成していただくことを願っております。

結びに、このプログラムの策定に当たり、ご協力いただきました備前市教育未来創造会議の皆さまに心より御礼申し上げます。

(注1)「ローバル人財」とは、ローカル（備前そして日本）に根差して、グローバル社会で活躍できる人財のこと

令和5年（2023年）4月

備前市教育庁国際教育推進部

CONTENTS

～備前の子供に身に付けさせたい力と英語教育～

1	幼・小・中一貫英語教育の導入	1
	(1) 社会状況の変化による英語教育の必要性	
	(2) 日本人の英語力	
	① TOEFL iBT とは	2
	② TOEIC Test とは	3
	(3) 幼・小・中一貫英語教育の導入	
	(4) 備前市教育大綱の実現	4
	(5) 備前市幼・小・中一貫英語教育の目標	
2	保育園・こども園英語教育推進事業	5
	(1) 早期英語教育のメリットと	
	(2) 早期英語教育のデメリットと対応策	
	(3) 幼児の特性	6
	(4) コミュニケーションの観点から	
	(5) 保育士・幼稚園教諭の心構え	
	(6) 幼児期の英語習得（目標）	7
3	小学校英語教育推進事業	8
	(1) 小学校6年間と見とおしたねらい	
	(2) 小学校JTEの心構え	
	(3) チャレンジトークの活用	
4	小学校における各学年での取組と卒業時の姿	9
	(1) 低学年（第1・2学年）	
	(2) 中学年（第3・4学年）	
	(3) 高学年（第5・6学年）	
	(4) 4技能の扱い	10
	(5) 小学校卒業時の児童の姿	
5	中学校における取組と卒業時の姿	11
	(1) 学年ごとの目標	
	(2) 中学校3年間を見とおしたねらい	
	(3) 中学校卒業時の生徒の姿	12
6	幼・小・中12年間のねらい及び育成すべき態度・資質・能力	13
7	カリキュラム・指導体制の詳細	14
	(1) 小学校の授業時間数	
	(2) 中学校の授業時間数	15
8	ALT（外国語指導助手）の配置事業	
	(1) ALTの配置状況	
	(2) 保育園とこども園での幼児英語教育の実践	
	(3) 小学校におけるALTとのTT	16
	(4) 中学校におけるALTとのTT	
9	小・中学校での教科外の英語教育の充実	17
	(1) 総合的な学習の時間や放課後、朝の時間などの活用	
	(2) 英語でコミュニケーションを行う機会の拡大	18
10	英検・英検Jrの紹介	
11	言語の習得に必要な学習時間数	19
	(1) 「言語習得には一般的にどれくらいの時間が必要なのか」	
	(2) 英語学習時間数の獲得	20
	(3) 家庭での英語学習の在り方	21
	<参照>	
	<附属(クラスルーム・イングリッシュ)>	22

備前の子供に身に付けさせたい力と英語教育

1 幼・小・中一貫英語教育の導入

(1) 社会状況の変化による英語教育の必要性

文部科学省によって 2020 年に、戦後最大規模と称される教育改革が実施されました。その改革の柱は、「大学入試改革」と「小・中・高の新学習指導要領」、そして「英語教育改革」の三つです。なかでも英語教育改革は、入試はもちろん、学校の授業にも大きな影響を与えています。また、現代のグローバル社会において英語の重要性がますます高まっていることから、とりわけ大きな注目を浴びています。

社会情勢の変化に伴い、社会活動において求められる力が変化しています。知識のみならず、思考力・判断力・表現力や、主体性をもって多様な人々と協働する力がより一層求められるようになりました。また、グローバル社会の進展により、ますます「英語によるコミュニケーション能力」の必要性が高まっています。そのための鍵となるのが、「聞く」「読む」「書く」「話す」の英語 4 技能の強化です。

本市の教育も、子供たちを取りまく様々な社会状況の変化に対応していく必要があります。特に英語教育においては、以下の状況の進展を踏まえ、『ねらい』や『育成すべき子供像』を設定し、効果的で一貫性のある教育内容にしていく必要があると考えます。

- ① 国際化が進展する「知識基盤社会^(注 2)」の時代における英語教育の充実
- ② インターネット等の普及によるグローバル化と英語力へのニーズの拡大
- ③ 大学・企業等における英語力重視の傾向
- ④ 学校・園における外国籍の児童・生徒の増加

(2) 日本人の英語力

「先進国の中で日本人の英語力は低い」とよく言われますが、実際のところを ETS^(注 3)が開発した英語検定試験（TOEFL iBT と TOEIC® Program）の成績で比較してみています。

(注 2)「知識基盤社会」は、変化が激しく、常に新しい未知の課題に試行錯誤しながらも対応することが求められる社会です。こうした社会を生き抜く資質として、わが国の子供たちにとって課題となっている思考力、判断力、表現力を高めることが求められています。

(注 3)「ETS(Education Testing Service)」は、1947 年に設立され、米国ニュージャージー州プリンストンに拠点を置き、TOEFL や TOEIC Program、SAT（全米大学入学共通試験）、GRE（大学院入学共通テスト）を含む約 200 のテストプログラムを開発している世界最大の非営利テスト開発機関です。ETS により制作されたテストは世界 180 か国以上で実施され、毎年延べ 2,400 万人が受験しています。

① TOEFL iBT とは

- ・ TOEFL iBT は、大学や大学院などアカデミックな場で必要な英語力を測る試験で、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの4つのセクションに分かれています。各セクション 30 点の合計 120 点満点で、試験時間は約 3 時間です。
- ・ 2019 年実施の TOEFL iBT の結果、アジアの国々で受験した 29 か国中、日本の順位は 27 位でした。各国の受験者数や受験者層には様々な違いがあるため参考程度の比較にはなりますが、TOEFL iBT 受験者は英語学習を意識している日本人が多いにもかかわらず、英語力はかなり低い可能性があります。
- ・ 2019 年の日本人受験者のリーディング、リスニングとライティングの平均スコアは 18 点なのに対しスピーキングは 17 点で、合計スコアは 72 点が平均となっています。ちなみにこの平均スコアは他国の受験者と比べて決して高い数字ではありません。例えば、同じアジア圏で英語を母国語としない韓国の平均スコアはリーディング 22 点、リスニング 21 点、スピーキングとライティングが 20 点、合計スコアは 83 点が平均で順位は 13 位でした。

Geographic Region and Native Country	Reading	Listening	Speaking	Writing	Total	Geographic Region and Native Country	Reading	Listening	Speaking	Writing	Total
アフガニスタン	16	18	21	19	74	マレーシア	23	24	22	23	91
アルバニア	19	19	21	20	79	モンゴル	18	20	20	19	77
バングラデシュ	22	22	22	22	88	ミャンマー	19	20	21	21	81
カンボジア	16	18	20	19	73	ネパール	20	21	22	22	85
中国	21	20	20	20	81	パキスタン	22	23	25	23	94
香港	21	23	22	22	88	フィリピン	20	22	23	22	88
インド	23	24	24	24	95	シンガポール	24	25	24	24	98
インドネシア	21	22	21	21	86	スリランカ	20	22	22	21	85
日本	18	18	17	18	72	台湾	22	22	20	20	83
カザフスタン	20	22	22	21	85	タジキスタン	15	17	20	17	69
北朝鮮	21	21	20	20	83	タイ	20	21	20	20	80
韓国	22	21	20	20	83	トルクメニスタン	18	20	20	19	77
キルギスタン	17	19	20	18	74	ウズベキスタン	19	21	21	20	81
ラオス	14	17	19	17	67	ベトナム	21	21	21	22	85
マカオ	20	21	21	21	83	—	-	-	-	-	-

* 参照元：TOEFL iBT Test and Score Data Summary 2019 <Asia>

② TOEIC Test とは

- ・ TOEIC Test は、一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会（IIBC）が日常生活やグローバルビジネスにおける生きた英語の力を測定する、世界共通のテストで、聞く・読む力を測る TOEIC Listening & Reading Test と、話す・書く力を測る TOEIC Speaking & Writing Tests により、4 技能（聞く・読む・話す・書く）全ての英語コミュニケーション能力が分かります。
- ・ リスニング、リーディング、スピーキング、ライティング、それぞれ 200 点満点です。
- ・ TOEIC Test は世界 160 か国、約 14,000 の企業・教育機関等で利用されています。
- ・ 2022 年 6 月 23 日実施の TOEIC Speaking & Writing Tests の結果、受験者の国・地域別平均スコアを見ると、22 か国中日本はスピーキングが 114 点で 18 位、ライティングが 133 点で 19 位、合計スコアは平均 247 点で順位は 18 位でした。

国名	Speaking	Writing	合計	国名	Speaking	Writing	合計
アルゼンチン	155	165	320	日本	114	133	247
チリ	123	137	260	韓国	128	147	275
中国	122	147	269	メキシコ	147	158	305
コスタリカ	142	159	301	パナマ	125	134	259
エクアドル	154	154	308	フィリピン	155	170	325
エルサルバドル	132	150	282	ポーランド	128	140	268
フランス	147	165	312	シンガポール	124	144	268
ドイツ	166	167	333	スペイン	126	144	270
香港	103	123	226	台湾	103	123	226
インドネシア	103	114	217	タイ	105	140	245
イタリア	138	151	289	ベトナム	117	149	266

* 参照元：2022 年 6 月 23 日実施 TOEIC Speaking & Writing Tests

(3) 幼・小・中一貫英語教育の導入

前述のような社会情勢の中、備前市の英語教育の効果的な推進策として、「幼・小・中一貫英語教育推進プログラム」を策定しました。

従来の「小・中接続」は、小学校 6 年生から中学校 1 年生に進学する際に、なだらかな接続と適度な段差をもって円滑に行うことを指していますが、「小・中一貫」とは、小学校 1 年生から中学校 3 年生までの 9 年間をとおした教育課程を編成し、見通しをもって系統的に教育していくことを指しています。

本市では、「幼・小・中一貫英語教育推進プログラム」を策定することによって、一貫英語教育の理念や目的などについて、各学校・園の英語担当者の共通理解のもと、幼・少・中の 12 年間一貫した英語教育に取り組むこととなります。

なお、備前市教育未来創造会議の意見の集約として、次の4点が示されています。

- ① 子供たちのコミュニケーション能力を高める必要がある。
- ② 国際的共通語である英語によるコミュニケーション能力が必要とされている。
- ③ 日本遺産に認定された旧閑谷学校や備前焼、北前船寄港地大多府島を有する郷土の文化や歴史を英語で発信できるようにする。
- ④ 全国に先駆けて実施している各校園に1名のALT^(注4)を常勤で配置する事業をさらに効果的なものにする。

(4) 備前市教育大綱の実現

令和3年(2021年)10月策定の「備前市教育大綱」では、本市の子供を育む視点として、「学校教育の充実」の中に7つの項目が示されています。「幼・小・中一貫英語教育推進プログラム」では、一貫した英語教育を通じて、「ローバル人財」の育成を目指していきます。

- ① 学校で学んだことに誇りを持ち、これからの時代を生き抜く力を獲得できる教育を目指します。
- ② 「楽習力^(注5)」「表現力」を育てながら「確かな学力」と「人間力」を育みます。
- ③ 知・徳・体のバランスを備えた人材の育成を目指します。
- ④ よりよい社会を切り拓いていくICT^(注6)を活用できる人材の育成を目指します。
- ⑤ 日本語も英語もできる、「ローバル人財」の育成を目指します。
- ⑥ 小中一貫教育に取り組み「自立自律と共同探求^(注7)」をワンセットで推進します。
- ⑦ 子供を主人公に、家庭、地域、教師は支え、見守り、全ての子供の個性と成長の可能性を掘りおこし、子供とともに育っていく「共育」を実践します。

(5) 備前市幼・小・中一貫英語教育の目標

積極的に英語でコミュニケーションを図り、温かい人間関係を築くとともに、ふるさと備前市に誇りを持ち、自信をもって相手と思いや考えを交わし合うことをとおして、問題を解決したり新しいものを生み出したりする資質や能力を育てます。

(注4)「ALT (Assistant Language Teacher)」とは、外国語指導助手のことです。

(注5)「楽習力」とは、「学ぶこと」を好きになり、楽しいと感じる力のことです。

(注6)「ICT(Information and Communication Technology)」とは、情報通信技術のことです。

(注7)「自立自律と共同探求」とは、自立し、自分で判断して行動できる力と、仲間と協力してそれぞれが役割を果たしながらともに目的を達成する力の両方の力をバランスよく育てる教育のことです。

2 保育園・こども園英語教育推進事業

(1) 早期英語教育のメリット

- ① 言語の習得には臨界期があるため、英語学習が遅くなればなるほど、第 2 言語としての英語の習得は難しくなります。そもそも日本語と英語は、使用する周波数が異なり、幼少期に英語に触れたことのない日本人にとって、英語の音を聞き取ることは非常に大変なのです。この英語を聞き分けることができる能力を「英語耳」と呼び、この能力は大人になってからでは身に付けるのが難しいと言われています。
- ② 子供の英語学習法は、理屈や理論に基づいたものではなく、より直感的に学びます。それは、「まねをする」ことで、ALT の話す英語を見様見まねで話し、恥じることなくアウトプットしていきます。したがって、子供にとって一番の英語習得法は、とにかくたくさんの生の英語を聞かせて、コミュニケーションをすることです。
- ③ 意識や感覚が凝り固まってしまう前に、英語という言語を通じてそのバックグラウンドを感じ、学び、理解することによって、多様性への寛容力をもつようになります。つまり違いを認め尊重し合う、まさに国際理解教育に通じます。

(2) 早期英語教育のデメリットと対応策

- ① 言語というのは、論理的に思考するうえで大切な基盤となるものです。そのため 2 つの言語がともに未熟であると、せっかく 2 か国語でコミュニケーションが取れても論理的思考力は未発達のままになります。これは無計画にただ単に英語の学習時間を増やしたり、子供に混乱を招くような英語への触れ方や、日本語学習を疎かにするなどした場合に起こりうる問題です。
- ② 日本人としてのアイデンティティを失う、と心配する人がいます。日本人であるのに、日本の歴史や文化・習慣などを大事にしない、理解できない、というのであれば問題ですが、それらを理解し、尊重し、そのうえで自分らしいアイデンティティが育てば問題はありません。
- ③ 日本語と英語の両方を学ばせるのは子供にとって負担になる。しかし実際は、英語の学習方法は日本語と違ってとてもアクティブです。英語を学習すると、日本語と英語の違いに対して敏感になり、日本語をより意識するようになり、日本語に対するアプローチもかわり、相乗効果も期待できます。
- ④ 早期英語教育のデメリットに対する解決策の一つとして、読書活動をお勧めします。読書によって母語を豊かにすることが英語を伸ばすことにつながります。

(3) 幼児の特性

幼児は、理屈を教わらなくても自然と言語を習得できます。また、幼児には言語習得に適した次のような特質があります。

- ① 耳から新しいことを学ぶことができる。
- ② 分かるところだけ分かり、分からないところは気にしない。
- ③ まねることが上手。
- ④ 繰り返しを楽しむ。しつこいくらい繰り返す。
- ⑤ 身体を使って言葉のリズムを楽しむ。
- ⑥ 知らないことや、珍しいことに対する好奇心が強い。100%分かっていないことでも口に出す。

(4) コミュニケーションの観点から

コミュニケーションのために言葉を学ぶという点について、幼児には次のような特性があります。

- ① 自分のコミュニケーションの目的のために、何度でもしつこく繰り返す。
- ② 顔や声の調子をまねる。
- ③ ジェスチャーを付けることを恥ずかしがらない。
- ④ 変わっているイントネーションを面白がる。
- ⑤ 分からないことがあっても諦めずに、また挑戦する。

(5) 保育士・幼稚園教諭の心構え

- ① 保育園・こども園での英語の活動は ALT が中心で行われます。そこで、子供たちのことをよく理解している保育士や先生は、クラスの学習環境が整うようにマネジメントしてください。
- ② その際も、できるだけクラスルーム・イングリッシュ(注8)を使ってください。
- ③ 幼児期の英語の習得は、ゲームをしたり、歌を歌ったり、読み聞かせをしたり、また、TPR(注9)などを楽しみながら、英語の音やリズムに慣れ親しむことから始まります。保育士や先生も積極的に参加してください。
- ④ 英語で活動する時間帯「イングリッシュ・タイム」の時は、保育士・先生もできる限り日本語を使わないようにしてください。
- ⑤ 園の中に、可能であればイングリッシュ・コーナーを設けて、英語や外国の雰囲気、又はイングリッシュ・タイムの活動の様子を写真などで紹介できるように工夫してください。

(注8)「クラスルーム・イングリッシュ」は、英語活動における教師の指示や児童・生徒の対応の「決まり文句」のことです。＜附属＞を参照してください。

(注9)「TPR (Total Physical Response)」とは、教師が出す指示に従って身体を動かす活動のことで、英語の音やリズムになれるのに有効です。

(6) 幼児期の英語習得（目標）

年 齢	習得内容
0 歳～2 歳	・ この時期は英語に触れ、なじませる。 ・ 日本語も英語も聞こえたとおりに吸収し、まねをする。 ・ 英語で話しかければ、英語のまま聞き取る。 ・ 身体全体で反応して覚える。言葉の天才である。 ・ リズムと一緒に体を動かしながら言葉を覚えていく。 ・ ものまねを好み、繰り返しを嫌がらない。覚えるまで繰り返す。 ・ 『英語で挨拶』や『英語の歌を歌う』、『英語の本は英語で読み聞かせ』などの習慣を付けておく。
3 歳～5 歳	・ この時期は英語の素地を作る。 ・ 1・2 歳で、『英語で挨拶』や『英語で本を読む』などの習慣が付いていると、この時期の子供は英語に抵抗がない。 ・ さらに英語を使っていろんなことを言いたがる。 ・ 英語は不思議と変わったリズムをもつ楽しい遊び道具。 ・ 気に入った絵本があれば、何度でも繰り返し読んでもらい、どんどん覚えることができる。 ・ 人前で発表することを嫌がらない。 ・ フォニックス(注 10)を覚えて、単語を読むことに挑戦したり、書いたりすることができるようになる子もいる。 ・ この時期の子供は真の国際人で、心から外国の人を歓迎したり、外国から来た子供と仲良くすることができる。 ・ 分からないことを気にするより、分かったことを楽しむ。素晴らしい特性を活かし、イースターなどのイベントを指導するとよい。

(注 10) 「フォニックス(Phonics)」とは、発音と文字の関係性を学ぶ音声学習法で、もともと英語圏の子供たちに読み書きを教えるために開発されたもので、アルファベットごとの発音を先に学ぶことで、知らない単語でも耳で聞いただけでスペリングが分かり、正しく書くことができます。さらにフォニックスを身に付ける利点は、英語力がアップするだけでなく、「聞く・話す・書く・読む」の 4 技能全ての力がアップすることにあります。

3 小学校英語教育推進事業

(1) 小学校 6 年間を見とおしたねらい

- ① 外国人に対し、照れたり物怖じしたりせず、進んで英語でコミュニケーションを図ろうとする。
- ② 少々分からないことがあっても、粘り強く英語でコミュニケーションを続けようとする。
- ③ 郷土に誇りと愛着をもち、自分のお気に入りの場所や事柄について、基本的な英語を使って説明したり紹介したりする。
- ④ 自分自身や相手のこと、身の回りのことなどを話題にして、基本的な英語を使って事実や自分の考え、気持ちを伝え合う。

(2) 小学校 JTE^(注 11)の心構え

- ① まず先生自身が楽しむことが大切です。
先生の英語に対する不安は児童にも伝わります。先生が思いっきり楽しめば、児童も英語の授業が楽しくなります。ただし、英語学習者として正しい発音をまねるように最大限努力してください。
- ② クラスルーム・イングリッシュを意識的に使ってください。
児童のやる気を引き出すためには、プラスの言葉がけが大切です。
"Good job!"や"Excellent!"などの褒め言葉を、身ぶり手ぶりや表情を付けて頻繁に使ってください。
- ③ 英語の雰囲気壊さないように意識してください。
ALT の指示を日本語で確認や説明をしないようにしてください。理解できていないと思われる児童に対しても、できる限りクラスルーム・イングリッシュや簡単な英語を使って、また表現を変えるなど、あくまで英語で理解させるようにしてください。
- ④ 本市では令和 4 年（2022 年）度から、保育園・こども園に ALT を配置し、子供たちの「英語耳」の習得を積極的に行っています。幼・小一貫英語教育を継続させるためにも、そういった背景を考慮した取組が必要です。

(3) チャレンジトークの活用

「指導と評価の一体化」の観点から、カリキュラムに対応した「話すこと・やり取り・発表する」を評価する「Challenge Talk (チャレンジトーク)」(別紙)を作成し、市内全小学校へ配布します。

(注 11)「JTE (Japanese Teacher of English)」とは、英語教師、英語専科教師など、日本人の英語指導者のことです。

4 小学校における各学年での取組と卒業時の姿

(1) 低学年（第 1・2 学年）

・目 標	英語の正しい発音やリズムに慣れ、コミュニケーションを楽しむ。
・詳 細	① リズム遊び、歌、TPR などを楽しみながら、英語の音やリズムに十分慣れ親しむ。 ② 異文化の存在を知り、様々な気付きをとおして世界を広げていく。

(2) 中学年（第 3・4 学年）

・目 標	英語の正しい発音やリズムに慣れ、進んでコミュニケーションを図ろうとする。
・詳 細	① 身近な題材で英語によるコミュニケーション活動を楽しむ。 ② 身近で初歩的な英語を聞いて、内容を理解しようとする。 ③ 簡単な質問をしたり、答えたりしようとする態度を身に付ける。 ④ 英語の文字に触れ、読んだり、書いたりしようとする。 ⑤ 異文化に興味を持ち、母語や英語に対する意識を高める。

(3) 高学年（第 5・6 学年）

・目 標	英語の正しい発音やリズムに慣れ、知的好奇心をもちながら、コミュニケーションを図る。
・詳 細	① ALT を始め、様々な人とのコミュニケーションに親しむ。 ② 身近で初歩的な英語を聞いて、分からないところを推測しようとする態度を身に付ける。 ③ 身近で初歩的な英語で、自分の考えや気持ちなどを相手に伝えようとする態度を身に付ける。 ④ 身近な英語を読むことに興味をもつなど、理解しようとする態度を身に付ける。 ⑤ 身近な英語を書くことに興味をもつなど、表現しようとする態度を身に付ける。 ⑥ 異文化を理解し、異なる文化をもつ人々と積極的に関わろうとする態度を身に付ける。

(4) 4 技能の扱い

小学校の段階では、「聞くこと」、「話すこと」を中心とします。そのうえで児童の発達段階を踏まえて、中学年で「読むこと」、「書くこと」にも触れていきます。

・「聞くこと」	英語特有の音やリズム、イントネーション等に慣れ親しみ、英語を聞いて、聞いた内容の概要を理解しようとする態度を養います。また、児童が理解可能な形でたくさん英語を聞く機会を与えていくことが大切です。
・「話すこと」	英語の新しい音に十分慣れ、日本語との音の違いに気付き、それを模倣することによって、英語を話す活動を自然に行うことができるようになります。そのため、早急に発話を求めず、聞くことから段階を踏んで指導を行うことが大切です。また話す活動は、 児童が必要性感じられる内容であることが大切です。
・「読むこと」	文字への関心が高まる第3学年くらいから、児童の負担にならないように、絵カードの下に英語の綴り字を示すなどして、自然に文字に触れたり、親しんだりする活動を取り入れることも考えられます。英文を示す際には、読むことをねらいとするよりもむしろ、音声によるコミュニケーション活動を補助するものと考えます。
・「書くこと」	文字への関心が高まる第3学年くらいから、児童の負担にならないように、児童の興味・関心に合わせ、各活動を取り入れることも考えられます。自分の名前や ALT に宛てたグリーティングカードを書くといった、 児童が必要性感じられる内容であることが大切です。

(5) 小学校卒業時の児童の姿

6年間英語に触れ、英語によるコミュニケーションを楽しむ活動をとおして、積極的に自己表現をし、他者を理解しようとする気持ちをもった児童が育ちます。また、ALT と触れ合い、異文化を体験的に学ぶことをとおして、異なる文化の存在に気付き、認める心が育ちます。さらに自国や郷土の文化への関心も高まります。

- ① 多様な文化について、「違い」を「違い」として認識する態度や相互に共におしている点を見付けようとする態度が身に付いている。
- ② 英語に親しみ、様々な人々と積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする態度が身に付いている。

- ③身近な英語を聞いて、分からないところを理解しようとする態度が身に付いている。
- ④挨拶などの身近な表現に慣れ、表現しようとする態度が身に付いている。
- ⑤身近な単語を見て、意味を想像しようとするなど、文字に対する関心が高まっている。
- ⑥自分の名前や身近な単語などを書くことに親しみ、必要に応じて積極的に使おうとする態度が身に付いている。
- ⑦様々な国の人々とのコミュニケーション体験をとおして、英語が国際的にコミュニケーションの手段として有用であるということを理解している。
- ⑧世界の様々な状況や、世界の中での自国や郷土の状況に目を向けるようになる。

5 中学校における取組と卒業時の姿

(1) 学年ごとの目標

第1学年	自分の気持ちや身の回りの出来事などの中から簡易な表現を用いたコミュニケーションを図る。
第2学年	事実関係を伝えたり、物事について判断したりした内容の中からコミュニケーションを図る。
第3学年	様々な考えや意見の中からコミュニケーションを図る。

(2) 中学校3年間を見とおしたねらい

義務教育終了段階で身につけていることが求められている力を踏まえ、英語教育のねらいを設定します。

- ① 中学校卒業後も一人一人が必要とする英語力を向上させられるよう、英語を学び続けようとする態度を身に付ける。
- ② 積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付ける。
- ③ 伝え合う内容を大切にし、主体的なコミュニケーションの中で、英語を「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能にわたり活用する。
- ④ 異文化を理解するとともに自国や郷土の文化への理解を深め、異なる文化をもつ人々とともに生きようとする態度を身に付ける。

(3) 中学校卒業時の生徒の姿

幼・小・中にわたって培われたコミュニケーション能力を活かし、観光などで訪れた外国人と積極的にコミュニケーションを図ったり、地域の外国人住民と日常的に交流しようとする生徒が育ちます。また、ALT や外国につながる子供との触れ合いをとおして、自他の文化を認め、ともに生きようとする意識が育ちます。

- ① 中学校卒業後、一人一人が自分に必要な英語力を高められるように、英語でのコミュニケーション能力の基礎や英語の学び方を身に付けている。
- ② 将来の夢や希望について話することができる。
- ③ 趣味や家族のことなどを話したり、書いたりして紹介することができる。
- ④ 日記や書き留めておく必要のあることなどをメモすることができる。
- ⑤ 初歩的な英語で書かれた環境問題や平和、人権などをテーマにした説明文を読んで概要を理解することができる。
- ⑥ 初対面の外国人に対して、年齢や出身地、学校や部活動、趣味など自分のことを相手、場面、時間などを考慮して、紹介することができる。

6 幼・小・中 12 年間のねらい及び育成すべき態度・資質・能力

	ねらい	育成すべき態度・資質・能力
中学校	・卒業後も一人一人が必要とする英語力を向上させられるよう、学び方とともに、学び続けようとする態度を身に付ける。 ・積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付ける。 ・伝え合う内容を大切にし、主体的なコミュニケーションの中で、英語を「聞く」「話す[やり取り・発表する]」「読む」「書く」の4技能5領域^(注12)にわたり活用する。 ・異文化を理解するとともに、自国や郷土の文化への理解を深め、異なる文化をもつ人々とともに生きようとする態度を身に付ける。	・積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度。 ・初歩的な英語を聞いて話し手の意向などを理解する力。 ・初歩的な英語を用いて自分の考えなどを話す力。 ・初歩的な英語を読んで書き手の意向などを理解する力。 ・初歩的な英語を用いて自分の考えなどを書く力。 ・自国や郷土の文化や異なる文化への関心をもち、尊重できる態度。

(注12) 「4技能5領域」とは、聞く・話す[やり取りする・発表する]・読む・書くことを意味します。

小学5・6年	・ALT など、様々な人とのコミュニケーション活動に親しむ。 ・身近で初歩的な英語を聞いて分からないところを推測しようとする態度を身に付ける。 ・身近で初歩的な英語で、自分の考えや気持ちなどを相手に伝えようとする態度を身に付ける。 ・身近な英語を読むことに興味をもつなど、理解しようとする態度を身に付ける。 ・身近な英語を書くことに興味をもつなど、表現しようとする態度を身に付ける。 ・異文化を理解し、異なる文化をもつ人々と積極的に関わろうとする態度を身に付ける。	・間違いを恐れず主体的に英語でコミュニケーションを図ろうとする態度。 ・相手を積極的に理解しようとする態度。 ・自分の考えなどを積極的に伝えようとする態度。 ・身近で初歩的な英語を聞いて理解し、反応しようとする態度。 ・身近で初歩的な英語を用いて相手に伝えようとする態度。 ・身近で初歩的な単語や表現を読んで理解しようとする態度。 ・身近で初歩的な単語や表現を文字で表そうとする態度。 ・言語や文化の違いや共通点を理解しようとする態度。
小学3・4年	・身近な題材で英語によるコミュニケーション活動を楽しむ。 ・身近で初歩的な英語を聞いて、内容を理解しようとする。 ・簡単な質問をしたり、答えたりしようとする態度を身に付ける。 ・英語の文字に触れ、読んだり、書いたりしようとする。 ・異文化に興味をもち、母語や英語に対する意識を高める。	・英語の音やリズムへの関心。 ・間違いを恐れず英語でコミュニケーションを図ろうとする態度。 ・身近で初歩的な英語を聞いて理解しようとする態度。 ・英語の文字を見て、書き写そうとする態度。 ・言語や文化の違いに対する興味・関心。
小学1・2年	・リズム遊び、歌、TPR などを楽しみながら、英語の音やリズムに触れる。 ・異文化の存在を知り、様々な気付きをとおして世界を広げていく。	・聞いた音声を模倣しようとする態度。 ・歌やリズムに合わせて体を動かそうとする意欲。 ・英語への興味・関心。 ・未知のものへの好奇心。

7 カリキュラム・指導体制の詳細

モジュール学習 週 3～5 回(年間 102～175 回)
週 1～5/3 時間(35～58.3 時間)

(1) 小学校の授業時間数

学年	教科書等	指導内容	授業時数＜案＞ (年間)	指導体制
小学 1 年	なし	「聞く」・「話す」 を中心にした 指導	年間 12 時間 (月 1 時間×12 ヶ月) 朝学習などモジュール 学習(注 13)で週 3～5 回 (年間 35～58 時間)	学級担任・幼保 ALT と の TT(注 14)による指導
小学 2 年	なし	「聞く」・「話す」 を中心にした 指導	年間 12 時間 (月 1 時間×12 ヶ月) 朝学習などモジュール 学習で週 3～5 回 (年間 35～58 時間)	学級担任・幼保 ALT と の TT による指導
小学 3 年	国の配布教材 Let's Try! 1	「聞く」・「話す」 を重視し、「読む」・「書く」に つなげる指導	年間 35 時間 (週 1 時間×35 週) 朝学習などモジュール 学習で週 3～5 回 (年間 35～58 時間)	英語専科教員又は学級 担任・小学校 ALT との TT による指導 [注意]朝学習は ALT に よる指導
小学 4 年	国の配布教材 Let's Try! 1	「聞く」・「話す」 を重視し、「読む」・「書く」に つなげる指導	年間 35 時間 (週 1 時間×35 週) 朝学習などモジュール 学習で週 3～5 回 (年間 35～58 時間)	英語専科教員又は学級 担任・小学校 ALT との TT による指導 [注意]朝学習は ALT に よる指導
小学 5 年	小 5 用教科書 NEW HORIZON Elementary 1 英語科副読本	「聞く」・「話す」 を重視し、「読む」・「書く」を 段階的に指導	年間 70 時間 (週 2 時間×35 週) 朝学習などモジュール 学習で週 3～5 回 (年間 35～58 時間)	英語専科教員又は学級 担任・小学校 ALT との TT による指導 [注意]朝学習は ALT に よる指導
小学 6 年	小 6 用教科書 NEW HORIZON Elementary 2 英語科副読本	「聞く」・「話す」 を重視し、「読む」・「書く」を 段階的に指導	年間 70 時間 (週 2 時間×35 週) 朝学習などモジュール 学習で週 3～5 回 (年間 35～58 時間)	英語専科教員又は学級 担任・小学校 ALT との TT による指導 [注意]朝学習は ALT に よる指導

- ① 1・2 年については、外国語又は外国語活動の時間はありません。しかし、前述のように、就学前にすでに生きた英語に触れ、TPR によって英語の音やリズムに慣れている児童の英語学習を継続するために、カリキュラム・マネジメントを工夫して、できる限り多くの学習時間を確保してください。
- ② 3・4 年については、標準授業時数は 35 時間ですが、言語学習は短時間であってもできる限り毎日行うことが大切です。朝学習のモジュール学習など、工夫して学習時間を確保してください。
- ③ 5・6 年については、標準授業時数 70 時間に朝学習などで持続可能な学習方法を検討してください。
- ④ 教育課程特例校の申請も検討する場合があります。

(注 13)「モジュール学習」とは、1 単位授業時間を分割する短時間学習のことで、1 単位時間 45 分とすると、15 分を 3 回に分けた学習となります。

(注 14)「TT (Team Teaching)」は、複数の教師が協力して行う授業方式の一つです。

(2) 中学校の授業時間数

学年	教科書等	指導内容	授業時数 (年間)	指導体制
中学 1 年	中 1 用教科書 NEW CROWN 1 英語科副読本	「聞く」・「話す」・「読む」・「書く」の 4 技能 5 領域を 総合的に指導	年間 140 時間 (週 4 時間×35 週)	英語教員・ALT と の TT による指導
中学 2 年	中 2 用教科書 NEW CROWN 2 英語科副読本	「聞く」・「話す」・「読む」・「書く」の 4 技能 5 領域を総合的に指導	年間 140 時間 (週 4 時間×35 週)	英語教員と ALT と の TT による 指導
中学 3 年	中 3 用教科書 NEW CROWN 2 英語科副読本	「聞く」・「話す」・「読む」・「書く」の 4 技能 5 領域を総合的に指導	年間 140 時間 (週 4 時間×35 週)	英語教員と ALT と の TT による 指導

8 ALT（外国語指導助手）の配置事業

(1) ALT の配置状況

中学校卒業段階で、自分自身や相手のこと、自国や郷土の文化や歴史、また身近な暮らしに関わる話題、中学生として考えるべき社会的な話題について、事実や思い、考えを英語で伝え合う力を育むため、本市では、平成 28 年（2016 年）に小学校 10 校と中学校 5 校のあわせて 15 校全てに ALT を常勤で配置しました。

また、令和 4 年（2022 年）にはこども園と保育園あわせて 10 園に、3 名の ALT を常勤で曜日を決めて各園に配置しています。

(2) 保育園とこども園での幼児英語教育の実践

「英語の使える 15 歳」を目標に、子供たちの在園期間中を「音声獲得期」と捉え、TPR や「フォニックス」によって『とにかくたくさん英語の音声に触れる』、『まねをして言う』などの英語特有の音を楽しみながら、英語らしい発音を身に付け、「英語耳」を作ります。そのために、英語のネイティブ・スピーカー(注 15)を配置しています。

(注 15)「英語のネイティブ・スピーカー（Native English speaker）」は、英語を母語としている人のことです。

(3) 小学校における ALT との TT

- ① ALT とともに TT で授業を行う最大のメリットは、『教室という空間に外国語を話す人がいる』という状況があるということです。そうした授業展開の中で、児童の ALT と話してみたいという思いが育ってきます。
- ② そのため ALT が CD のように機械的に英語を話すだけで、他者との関わりをもととしなければなかなか成果は上がらないでしょう。
- ③ いかに JTE と英語での「やり取り」「対話」を示せるかにかかっています。時にはスモールトークを取り入れ、ゲームなどのアクティビティの進め方をオールイングリッシュで行うことが大切です。
- ④ TT 成功の秘訣は、ALT と JTE がいかに協力して児童たちに興味をもたせるやり方で授業を進めることができるかにかかっています。
- ⑤ 一方で児童にとっても英語で即興的にやり取りができるという魅力も欠かせないものとなっています。
- ⑥ また、JTE として児童の前に立つときは、自身も英語の学習者であると考え、間違いを恐れず、一生懸命英語を使ってコミュニケーションしようとチャレンジしている姿が児童にとってかけがえのない、すばらしいモデルになりうることができます。
- ⑦ このようにクラスを運営する JTE のマネジメント力と ALT のアイデアやコミュニケーション力がうまくコラボレーションしてこそ、より充実した授業が可能になります。
- ⑧ そのためには、ALT を含めた「英語を教えるチーム」として今後、ALT が教室内外で、また英語や外国語活動の授業以外で、児童・生徒とどのような関わりをもつことができるか、ALT 個人の意欲や情熱によるのではなく、「英語を教えるチーム」として、各学校単位で計画的に考えていく必要があります。

(4) 中学校における ALT との TT

通常 ALT が TT の授業において果たす役割は、概ね次のとおりであると思われます。

- ・ 授業前に視聴補助教材や配布資料を作成する。
- ・ 導入部分での雰囲気作り（アイス・ブレイク）、又は目標設定や学習トピックの導入として JTE とやり取りする。
- ・ 英語音声のモデルとなり、生徒に対してフィードバックを与える。
- ・ 事前の準備を伴った導入を実施し、生徒が行う言語活動のモデルとなる。
- ・ 授業中に生徒の作文をチェックする。
- ・ 生徒の発話・発表に対してコメントする。
- ・ コーラス・リーディング用のキュー・モデルを与える。

- ・タスクの一部となる（例：生徒が日本の文化等を紹介する際の相手になる）。
- ・生徒による発話のパフォーマンス・テストを評価する。など

- ① しかし、本市が掲げる幼・小・中一貫英語教育の目標を実現するために、TTの授業は生徒のコミュニケーション能力の育成、特に「聞く」・「話す」・「発表する」ことに重きを置いています。
- ② 日本遺産などを始め、備前市の良さや自分の考えや気持ちを積極的に発信することができるコミュニケーション能力を身に付けるためには、ALT が果たす役割は上記のように単純なものではありません。
- ③ 本市が目指す英語教育を充実させ、特に「話す力」と「発表する力」を伸ばすためには、十分な少人数指導ができるようにペアワークやグループワークなどを導入して、生徒一人一人にコミュニケーション場면을豊富に体験させ、発話量を増やすことなどが必要です。

9 小・中学校での教科外の英語教育の充実

(1) 総合的な学習の時間や放課後、朝の時間などの活用

総合的な学習の時間などを利用し、必修科目の内容と関連付けて、コミュニケーション能力の育成に向けた授業を行うことが考えられます。

具体例としては、次のような活動などが考えられます。

- ① ALT の母国と日本の比較から、自然や環境問題などについて考えます。
インターネットや図書館で、ALT の母国の自然公園について調べ、広さや動植物についてパワーポイントやスライドなどを使って英語で発表します。また、自然公園内でのルールを日本語に訳し、日本との違いを比較し発表します。その上で気付いた問題点を挙げ、質疑応答などの「やり取り」を行います。
- ② コマーシャルや PR 動画を制作し発表します。
2～3 人で架空の商品や備前市の日本遺産などについてのコマーシャルを英語で作成し、ビデオで収録します。PR 動画の上映会を行い、お互いの作品を評価します。
- ③ 海外姉妹都市とのホームステイなど、相互交流での活動を行います。
(豪州南オーストラリア州クレア & ギルバートバレー、米国カリフォルニア州メンローパークなど)
- ④ 海外の学校や ALT の出身小・中学校とオンラインや E メールなどで交流を行い、同年代の児童・生徒と、お互いの夢や街の紹介など情報交換を行います。その中で広くものの考え方を知り、自己の生き方を考えるような活動を行います。

(2) 英語でコミュニケーションを行う機会の拡大

① 各学校における取組

- ・校内スピーチ・暗唱コンテスト、スキット（寸劇、短いドラマ）、合唱発表会の実施。
- ・児童・生徒が授業以外でも ALT と触れ合える機会の工夫。
（昼食、清掃、部活動、放課後の英会話サロン、行事などへの参加）
- ・児童・生徒が英語に関する情報等を得られるような場所の工夫。
（英語コーナーやイングリッシュ・ルームなどの設置）
- ・英語検定試験などの紹介。

② 備前市としての取組

- ・小学生英語暗唱コンテスト、中学生英語スピーチコンテストなどの開催。
- ・備前市イングリッシュ・フェスティバルの開催（英語スキット・英語合唱・コンテストの上位者の発表など）。
- ・副読本（備前市の偉人や歴史、観光案内を英語で紹介）の制作。
- ・イングリッシュ・キャンプや英語ガイドのトレーニング講座の開催。
- ・英字新聞の配布（配布範囲については検討中）
- ・英語圏の国への長期留学の相談受付。

10 英検・英検 Jr の紹介

公益財団法人日本英語検定協会が実施する「英検」と「英検 Jr」を紹介しますので、年齢、又は学年ごとの到達度の参考にしてください。

級		受験対象目安 受 験 料	出題目安など
英 検	1 級	大学上級レベル 公開会場 11,800 円	・二次試験では 2 分間のスピーチと、その内容に対する質問がなされる。 ・カギは英語の知識だけでなく、相手に伝える発信力と対応力。 ・世界で活躍できる人材の英語力を証明。
	準 1 級	大学中級レベル 公開会場 9,800 円	・エッセイ形式の実践的な英作文の問題。 ・「実際に使える英語力」の証明として高く評価。
	2 級	高校卒業レベル 公開会場 8,400 円 準 会 場 6,400 円	・医療やテクノロジーなど社会性のある英文読解も出題。 ・海外留学、国内での入試優遇・単位認定など、コミュニケーション力が高く評価される。 ・ライティングが加わる。
	準 2 級	高校中級レベル 公開会場 7,900 円 準 会 場 5,700 円	・教育や化学などを題材とした、長文の穴埋め問題が加わる。 ・大学入試対策にも最適。
	3 級	中学卒業レベル 公開会場 6,400 円 準 会 場 4,700 円	・二次試験でスピーキングのテスト。 ・英語で自分の考えを伝える。 ・筆記試験の題材は、海外の文化など少し視野が広がる。

	4 級	中学中級レベル 公開会場 4,500 円 準会場 2,900 円	・ 出題形式や内容がより実用的。 ・ 身近なトピックを題材とした読解問題が加わる。 ・ 基礎力を伸ばす。
	5 級	中学初級レベル 公開会場 3,900 円 準会場 2,500 円	・ 英語学習者の最初の目標。 ・ 家族のこと、趣味やスポーツなど身近な話題が出題。 ・ 英語の基礎固めに最適。

* 公開会場は、一次試験・二次試験ともに本会場になります。準会場は、一次試験は準会場、二次試験は本会場となります。詳細は英検ホームページでご確認ください。

級		受験対象目安 受験料	出題目安など
英 検 Jr	Gold	小学校高学年程度 テストのみ 2,300 円	・ SILVER での正解率 80%以上の児童が対象。 ・ 小学校での英語活動 3 年半～5 年程度。
	Silver	小学校中学年程度 テストのみ 2,300 円	・ BRONZE での正解率 80%以上の児童が対象。 ・ 小学校での英語活動 2 年～3 年半程度。
	Bronze	小学校低学年程度 テストのみ 2,300 円	・ 初めて受験する児童。 ・ 小学校での英語活動 1 年半～年程度。

* 参照元：公益財団法人日本英語検定協会ホームページ「英検 Jr テスト内容」

※英検受験料などの補助制度について検討する必要があります。

11. 言語の習得に必要な学習時間

(1) 「言語習得には一般的にどれくらいの時間が必要なのか？」

アメリカ国務省の FSI (Foreign Service Institute 外交官養成局) の発表によると、70 年以上におよぶ外国語教育の経験から、英語のネイティブ・スピーカーのアメリカ人外交官が、外国語を使って仕事ができるレベルに達するまでに必要な時間を、次の表のように伝えています。

約 600 時間	約 900 時間	約 1,100 時間		約 2,200 時間
デンマーク語 イタリア語 ルーマニア語 オランダ語 ノルウェー語 スペイン語 フランス語 ポルトガル語 スウェーデン語 など	ドイツ語 マレー語 ハイチ語 スワヒリ語 インドネシア語 など	チェコ語 ブルガリア語 フィンランド語 ヒンディー語 キルギス語 リトアニア語 ネパール語 スロベニア語 タイ語	ギリシャ語 ハンガリー語 ポーランド語 ウクライナ語 ベトナム語 アイスランド語 モンゴル語 ロシア語 トルコ語 など	アラビア語 日本語 中国語—広東語 中国語—北京語 韓国語 など

比較的英語に似た言語のイタリア語やスペイン語などの習得に必要な学習時間は約 600 時間、また英語と言語的及び文化的に著しい違いがあるネパール語、タイ語、ギリシャ語、ベトナム語などは約 1,100 時間、さらに彼らにとって習得

が非常に困難であると言われる日本語、中国語、韓国語などは、約 2,200 時間が必要であると言われています。

英語のネイティブ・スピーカーが日本語を習得するのに、2,200 時間程度が必要ということですので、単純に、日本人が英語を習得するのも、2,200 時間程度の学習時間が必要であると考えた場合、日本の公立中学校・高校に通った人は、中・高 6 年間で 1,000 時間程度、英語を学習していますので、残り 1,200 時間程度が必要ということになります。1,200 時間の学習ということは、一日 3 時間学習すると約 13 か月、一日 1 時間学習すると約 3 年 4 か月かかるということになります。

同じように習得が困難とされる言語を母国語とする中国、韓国と日本との英語教育の違いは、学習時間と学習開始時期にあると言われています。

小学校での英語教育の導入は、韓国、中国、タイなどは日本より 20 年以上前に必修化されています。また、韓国での小学校の英語の授業時間数は 340 時間であるのに対して、日本では 210 時間（2017 年までは 70 時間）で、韓国は日本より 130 時間も多いです。しかし、中学校になると日本のほうが 80 時間多いという結果になっています。

英語を母国語としない国では、国家戦略の一つとして、「音声獲得期」の取組が重要であると考え、早期英語教育を実施しています。

学 校	学 年	韓 国	日 本 (2018 年 から)	日 本 (2017 年 まで)
小 学 校	第 1 学年	0	0	0
	第 2 学年	0	0	0
	第 3 学年	68	35	0
	第 4 学年	68	35	0
	第 5 学年	102	70	35
	第 6 学年	102	70	35
	小計	340	210	70
中 学 校	第 1 学年	102	140	140
	第 2 学年	102	140	140
	第 3 学年	136	140	140
	小計	340	420	420
合計		680	630	490

(2)英語の学習時間数の獲得

① 保育園・こども園での時間数の確保

次の表は令和 4 年度の 10 の保育園・こども園（A～J）のイングリッシュ・タイムのレッスンの状況を表しています。今年度は常勤の ALT が 3 名という

各園		A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
イン グ リ ッ シュ ・ タ イ ム の 一 週 間 の 日 数	3 日										○
	2 日						○			○	
	1.5 日							○	○		
	1 日	○	○	○	○	○					
一日 の レ ッ ス ン 数	4 コマ			○	○	○	○	○	○	○	○
	3 コマ	○	○								

ことでしたので、園児の人数や重点地区などを考慮して ALT を配置しています。また、一回のレッスンは 30 分程度で、園の規模と園児の年齢によって一日 3～4 回のレッスンが行われています。

しかし、早期英語教育の導入と学習時間数の重要性を考えるなら、イング

リッシュ・タイムは週 5 日間毎日継続して行うことが望めます。

② 小学 1・2 年の英語の時間数の確保

幼小中一貫英語教育の成功のカギを握るのは小学 1・2 年の英語学習（外国語活動）といっても過言ではありません。14 ページにあるような時間数を確保することが望めます。

③ 教育課程（授業時間数）特例校について検討する必要があります。

(3) 家庭での英語学習の在り方

① 毎日無理のない範囲で課題を出してください。大切なことは児童・生徒が毎日取り組める内容・ボリュームであることです。そして範囲を班・グループごとに決めて暗記させてください。

② 教科書・テキスト・副読本の英文を黙読ではなく音読することが大切です。特に小学校での課題は毎日、音読、シャドーイングさせることが必要です。そのためにタブレットを利用してください。

③ 授業の始めに昨日の課題を班・グループごとに前に出て発表させてください。最後に各班・グループの発表をとおして課題の範囲を全て網羅します。また、班・グループごとに個人個人で発表させ、全体を網羅することもできます。

<参 照>

- ・「平成 30 年 2 月幼稚園教育要領解説」文部科学省
- ・「小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 総合的な学習の時間編」文部科学省
- ・「中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説」文部科学省
- ・中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」文部科学省
- ・中央教育審議会「初等中等教育分科会教育課程部会外国語専門部会議事録・配布資料・基礎データ」文部科学省
- ・ iibc-global.org/toEIC/value.html
- ・ TOEFL iBT Test and Score Data Summary 2019
- ・ englishhub.jp/news/toEIC-speaking-writing-2108.html#:~:text=TOEIC
- ・ rarejob.com/englishlab/column/20210823_03/
- ・ resemmon.jp/article/2022/07/19/67909.html
- ・ eiken.or.jp/eiken-junior/exam/ 英検・英検 Jr 受験対象・出題の目安
- ・ state.gov/foreign-language-training/ 米国国務省の外国語研修
- ・ Issues and Implementation of the 2015 Revised Curriculum 日韓英語時間数の比較

Classroom English (知っておきたい基本表現)

1. 授業のはじめに Hello, class (every one). Good morning (afternoon), every one! It's English time. How are you today? ➡I'm fine. And you? ➡I'm fine, too. Thank you. What day is it today? ➡It's Monday today. What's the weather like today? ➡ It's sunny (cloudy / raining) today.	皆さんこんにちは おはよう（こんにちは）、みなさん 英語の時間です 今日はどう？ ➡元気です。先生は？ ➡私も元気です。ありがとう 今日は何曜日ですか？ ➡今日は月曜日です 今日の天気はどうですか？ ➡今日は晴れ（曇り、雨）です
2. 授業の開始 Is everybody here? Stand up (, please). Sit down. Look. / Look at me. Are you ready? Now, let's begin / start. Let's enjoy English today.	みんなそろっていますか？ 立ちなさい 座りなさい。席に戻りなさい こちらを見なさい 準備はいいですか？ では、始めましょう 今日も英語を頑張り / 楽しみましょう
3. 授業中に Look at the board. Listen to the CD / me. Let's watch the video (DVD). Please take one copy each. Open your textbook, page 10. Come here / to the front / to the center. Go back to your seat. Step back. Any volunteers? It's your turn. Be quiet! Go ahead!	黒板を見て CD / 私の言うこと を聴いて ビデオ / DVD を観ましょう 一人一枚ずつ取ってください 教科書 10 ページを開きなさい ここに / 前に / 中央に来なさい 席に戻って 後ろに下がちなさい 誰かやれる(やりたい)人はいない？ 今度はあなたの番です 静かにして！ さあ、やってみて！

4. ペアワーク・グループワーク Desks together. (机を動かすジェスチャーをする) Desks back. (机を下げるジェスチャーをする) Move the chairs and make a big circle. Make pairs. Shake hands. Change partners. Face to face. Do rock, scissors, paper. Walk around and find a (new) partner. Make groups of 4. / Four students one group Group into 2 groups, A and B. You are in Group A (B). Stand up and line up here. Let's make two lines. / Two lines, please. Make a circle. Make a circle and sit down.	机を合わせなさい 机を後ろに下げなさい 椅子を動かして、大きな円を作ろう ペアになって 握手をして 相手を代えなさい 向かい合いなさい ジャンケンをしよう 歩き回って(新しい)パートナーを見つけよう 4 人のグループを作ろう A と B の 2 つのグループになろう あなたは A (B) グループです 立ってここに整列しよう 2 列になろう 円になりなさい 円になって座りなさい
5. 指示 Speak louder. Read it more loudly / slowly. Try to speak with your mouth wide open. Let's pronounce the new words one by one. Be careful about the accent. Will you close / open the curtains? If you have a question, please raise your hand. Let me have a look. Let me see. Repeat after me. Show me. Here you are. Be quiet. Stop talking.	もっと大きい声で話して もっと大きい声で / ゆっくり 読んで 口をもっと大きく開いて話すように 新しい単語を 1 つずつ発音しましょう アクセントに気をつけよう カーテンを閉めて / 開けてください 質問があったら、手を挙げてください 先生にちょっと見せて どれどれ 先生の後を繰り返しなさい 先生に見せなさい (ものを渡しながら) はい、どうぞ 静かにしなさい 話をやめなさい

6. ほめる Yes. / Good. / That's right. Good (job)! / Great (job)! You did a good job! / Wonderful! / Excellent! / Fantastic! / Perfect! Congratulations! Thanks. / Thank you. / Thank you very much. Nice try! / Good try! (その児童生徒を示しながら) Big hands!	正解です よくできました！ おめでとう！ ありがとう よく頑張ったね！ 〇〇さんに拍手！
7. 具体的にほめる Big voice. Great! Nice demonstration (presentation). Good eye contact. Nice gestures. Good interview. You are wonderful!	(大きな声で話した児童生徒をほめる) (クラスの前で発表した児童生徒をほめる) (アイコンタクトの良い児童生徒をほめる) (良いジェスチャーの児童生徒をほめる) (クラス全体が活発にインタビュー活動を行 ったことをほめる)
8. 励ます Don't be afraid of making mistakes. Don't give up. Don't worry. / No problem. Close! / Almost! Good luck. Try again. Don't be shy. Smile. Relax.	間違いをすることを恐れないで あきらめないで 心配しないで 惜しい！ / もうちょっとだね！ 頑張って もう一度 恥ずかしがらないで 笑顔で 落ち着いて / 焦らないで
9. 授業の終わりに Time is up. That's all. / That's all for today. See you tomorrow. Take care.	時間です 今日はここまで また明日 気をつけて(帰って)

10. ALT とのコミュニケーション Hello! Nice to meet you. I'm Tanaka Kenji. May I have your name? May I ask where you are from? ➡I'm from America. What part of America are you from? ➡California	こんにちは。お会いできてうれしいです 私は田中ケンジといいます お名前は？ どちらからいらしたのですか？ ➡アメリカ出身です アメリカのどちらですか？ ➡カリフォルニアです
Let's talk about today's lesson. Please teach the fourth grade. Please teach three classes altogether. Please play outside with the students during recess. Please eat lunch with the students. This is today's lesson plan. Today's topic is shopping. Will you play the main role in today's lesson. Could you read this sentence? Will you speak a little more slowly? Will you say it in a loud voice? How do you say this in English? How do you pronounce this? Will you work in pairs with your students.	今日の授業の打ち合わせをしましょう 4年生を教えてください 合計3コマ教えてください 休み時間は子供たちと一緒に外で遊んでください 子供たちと一緒にお昼を食べてください 今日のレッスンプランです 今日のトピックは買い物です 今日は中心となって授業を進めていただ けませんか？ この文を読んでいただけますか？ もう少しゆっくり話していただい ませんか？ もう一度大きい声で言っていただい ませんか？ これは英語で何といいますか？ これはどのように発音しますか？ 生徒とペアワークしていただい ませんか？
How was today's lesson? How were the students today? Shall we talk about the next lesson? I think today's activities was too difficult. I'm looking forward to the next lesson.	今日の授業はどうでしたか？ 今日の子供たちはどうでしたか？ 次の授業の打ち合わせをしましょうか？ 今日のアクティビティは難しすぎた と思います 次の授業を楽しみにしています